敗の段呼陥立せられたる状であつ 十七年五月八日であって大阪距域

(において)別数を展で 気役 法改正を 御競布に相成った事は賊と坚慰の

常出了は兵役の名譽と成務とを正 には趙ての護際、財百の脈線が事適用せらるゝに至め、名質技に願 る源大無道の悪態に應へ奉るため

遊情の完璧に向って

第カレ來った

一み八月一日を以て

兵役法は

胡餅に

過大・恩彦洋々たる破滅に耐へな一郎代の盛事とれに過ぐるものはな

日到來したのである、破話何物か

告論には「抑々神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ固 自萬同胞の榮光之に過ぐるものはない。 記すべき徴兵制、海軍時別

光榮を銘記し重責に任ぜよ

因あるに思いを効すならば、近く

當然その由って來る理由。原

外、迷惑の衛権に腐れ機能であく、此の治療を認定して緊急なは、の激験を備す「養真外、迷惑の衛権に腐れ機能であく、進める、はいまの管理を使うておいて、

朝鮮總督小磯

感激と記念の意識こを深くするら

盛し大なる際がは大なる自信と大

強の別力を要するは用かである

の差があり、從つて兵の正邪、帰弱また自ら 爪牙ともいふべき列國の軍隊の如きとは雲泥 時に於いて獨特の面目を發揮する所以をなす 質素の五ケ條にわたる御聖訓を垂れ給う を以て施行せられ、器國の感激今

軍の一員として晴れの資格を得ることになっ 世界に類例なき深遠なる建軍の意義をもつ皇

心情感激あるのみである。 が選に使れることを最大の恥辱となす

光榮の徴兵制 半島皇民化に書龍點睛 澎湃たり、我ら征かんの氣魄

記念の意識を深くした、昭和十三年陸軍特別派願兵令が朝鮮に施行 それ学問認ら復き門であつて、これのあを以つてして広動医療消費という思考人も現役文伝统一種が長職人の選が拒かれたとはいく、 る、而名日を同じうして海運特別忌源兵制度が資施され一階域激む の日であるばかりでなく、我國兵制史上派久に記録さるべき日であ の日は半島二十五百萬にとつて終生局れ得ぬ感謝の日であり、美光

国民は等しく、陛下の軍人として氷災騰減の第一級に置い限づにと

かつたのである。それが今日よりな内地同地同様常園田町たるの中・一次けみに強い総大側にり歴史を選み扱みてたとく、海準歌波あるの中のでは成実によって一層地震になった宛園新師の機響をどうしょうもな」に向って譲ってい、この気も、海がしけ地は海がしい間、監滅が 護朝鮮の確立を統治の根本とし、重難に、文化に、数管に、血のに て半郎同期をして名変共に急國西民たらしる。國際の本族に参呼、道際心に今日の築光は計判四年高歌者が一説同仁の聖旨を奉贈し 當局潜む、半島民も今日のこの楽器を勝高らかに説歌し、 たるの質を繋ぐべく努力補進を重ねて來た密集に外ならない・島政 じい近回語吹をなし、半島同胞交流治の真稀綿を理解し、皇國臣民

ねた語果生れたものである、況んや物質萬能の米炭粉が如何に頭を 念頭におかず、寒暑をいとはず、盛夜の別なく猛動線に猛門線を重

る著人は勿識、名されどる悲も、男も欠も、老いも落きも一日も速

貯銀業務兼營 普通、発行等の

合治信にないうともめわてず、まどはざるの心の心脈に、身振り

職なる神蔵の存すること

法衙問題に勝する中蔵双府

中國主傷形人と過言る魔の開 京田|日同盟| 鐵長歌形外変|

ものである、常在戦場の無端をい

兵、健民態点を施へて國民まつ

す、今日茲に光祭める皇國第人たる産態の本義に基くものでありま 得るの策墜を遵ひ得たる開鮮間

五百萬臣民ことことくが宏遠に明れ、あなさやけ今こそ半島二

國家千年の威觀を決するの秋に数。合東門委員會にようて完全なるで 法徴中誤税が委譲に属する日韓交 しのほど一切の手概を完了したの

のモスコー技法は、タス通信のジ 【ストツクホルム計日間器】 竹日

今こそ聖戰參與に蹶然起て

世丁及び 七の寒寒は 安心デ

【新豆性語】張盥荡惑連は蜘蛛人 蜘蛛人に動する後民制度はい

半島徴兵制實施に張總理談

一御同慶の至り

で製けて、理点る整備に 選拿を なる年夜の別雨で催し、 瞬保化助しりもな様式を放大無差なる個恩深 に、路通過すべきである、これ取【常真=復運無司令管】 の園舎派師中総典の台上に基園民(に帰い郷り、且つは場画に動小寿 る所以であると信ずる次第である

更に壁下の股版だるが惟常波極 の墨軍は人類の正義を管く世界に我が國の軍隊割ら、天皇御戮率

唯主の家印書して敬幸といこと「必要とする転である、即分屋面献」へ会であることを告げて敬幸をい「あります。そもそも我々な驚蔑と」の皇家の「真となり得ること、二 類類せんが第の電際であります。「令し倭家の修兵派との歌義なるの歌義なる」自出度く刺激に施行すられない。「まり出き語を続して「天皇神跳歌」の墨華は人類の正議を書く世界に「國家子年の蘇戦を失力の数に黙いて、天皇神脈歌」の墨華は人類の正議を書く世界に「國家子年の蘇戦を失力の数に黙いて「天皇神脈歌」の墨華は人類の正議を書く世界に「國家子年の蘇戦を失力の数に黙い

我が國は其の國力の超てを避けて

作人なる光楽・けら後長制書 ゲ元帥。網馬滞在か

中國自强を要望 調印式で谷大使挨拶

顕する條約爾印式においる谷大庫 【南京市一日周盟】 凱穆徹底線と

ハを撃墜 區域の回收、庭門、鼓浪療決同の場所の強所、北京公開館の場所、北京公開館

荒鷲、在支米空軍基地を連爆

衡陽及建甌を連日强襲し飛行場、停車場並に附近軍事施書と爆除、これに大なる損害を 隆二十月迄の狀況次 の如し、一部隊は引續さ在支米空軍の各航進基地で攻撃

摩縻せり、我方の損害 自爆四機なり

部隊がニューギニャの みの 貯蓄 率を强化 ペナベナを爆撃した副曲日急奏した

規模に管理されることになり、行 ののであるが、今回企業整備が大

有馬·青山·太樂·三漢士宗養

敵陣地奪取に偉勳

調整を掲す六條の規模に基く大脈

衛令第廿七號の改正省令を世上

さん たいのこの まれいまする

電点にお野町開業の発生が近の

作品所用政治法企業整備政治

正さらとてしたいのである

1

着之上形成部陳原宗が時間不は原に対しまって司令のよりが入の書館にして新規なを開かられしが、今款、既ぐると書を書せられ陸軍・省設法、(七月三十一日十六時)紹和十七日前派表が**次書**において、故郷なるが功を開て憲に法派を書館記を書げえる陸軍・省設法 酸嫩人を斬り難しこれを南方に眩患す、次で酸の一部が中隊とその

黑木少尉の武功上聞に達す

在留邦人へ奥地を開放

きのふ中國政府外交部聲明

代派してやまないと信ぎるもので一次であります【名は

ことして窓々前進一たゞただ思い

さて感激の血と現をもつて生活の

連備を進めるの証何を有するもの問題を實施し得るやう具限的

治法撤廢の先驅 財政强化に寄與素意の現場の現場の実施の実施の表に関います。

音書に中國における一切の不平等 供い中國側に手変さねる税額の数額を書が、と恋國が今回 一般元にのほるものと見られ、この政策の第一巻手として臨税額の委認 れが國科技派と客戦するところ政権の第一巻手として臨税額の委認 大である この好意によるもので今次姿態に

意見一致の

ないものである。

世年的一時半資租食師と緊急閣僚の 英漢のの緊急閣僚

する場合の歯の化うる馬米ノン園 シスト戦の元級語が中立國王に命 配後一時間にわたり重要協議を必 を開催、テセーテル司音のもとに

とこしば三遠さ名閣僚を印産却 とこしば三遠さ名閣僚を印催した真質に で、日本ので、伊政府との別僚について周季が際家庭度楽賞につき いて周季が際家庭度楽賞につき いてののが原本のとの別僚についてのので、 英政府が当東子協議したのではいて何部が終設直要張現につき

を匿ふな戦争責任者 鐡面皮の警告

を強した カ大統領ルーズベルトは前日会中カ大統領ルーズベルトは前日会中 職事遺伝者を思ふべからずと響声 立國に對しムツンリーニその他の

◇大家龍之助氏(頭煙暖湿糞底部) 一日明急行『ひかり』で暗場 一日明急行『ひかり』で暗場

されていつた。映並に敬語に、志願 兵を聞へる意は語言のていった、 四所以来日をあらて各方面に宣戦 皇國臣民化を 狙うを戦を敵兵に勢する奸能の疑な無疑所 る日本的映と相俟って戦争たる 幾多の武勇を發揮

解所等了生は直ちに軍隊に入り内

類出し、第一級と出でては参仁 ・ 本文体別・水気の如く灶烈 ・ に成単して側の故社で合配され、 ・ る着わり、国に気管わる金質側 を発型を着日本出してある今次 ・ 大東 正朝戦争に 参加して

和十九年十月から徴兵制町施の場 頭的疑惑となつたのである。

を取ち得たのである。。华島同節

更に光源を増すのみでなく半点

人比丁と同一水池の取扱いを受

星國臣民としての資質を具備

し地方の開脱指消除となって後期

人男士に劣らないことを多数の

な質を結んだといへるのである

大きな領跡を興へた、半島はも大きな領跡を興へた、半島同胞にも齊しく数と

き光祭を抱つを半四同師は安心師

朝鮮に徴兵制が布かれるまで

全社員の總意

れんと野みたつ若人は天野氏家庭 に六人をり長男庚福氏でも以下三

学 が、と感謝と感謝を込めて金一封 下で は本証を 訪れっほんの 値かです て

人は「敦美町の著です~と言つてといって百回を客託、またもう」

任じてゐるが今日まで

と五回を本社に客託した「異境」

て迎へる日を待ちめぐんでゐるが を火幅しい日を記念して々と本社

「上の三人は競役を固め第一級 日の 図がにがけますと言語を含むにつっこ人に強迫を固め無いる の日の 図がにがけますと言語を含むなべた石される四男保護 (石) 原本 (左) 衆本さ 上のなべた石される四男保護 (石) 原本 (左) 衆本さ 上のたべた「田面十七個をそうれるの強にだ点ですから大丈夫」 (相) 日本 (石) 原本 (左) 衆本さ 上のたります。 健康の方はこ (本) 日本 (本) 上海を耐べた「田面十七個をそうれるの強にだ点ですから大丈夫」 (相) 日本 (本) 日本 (本 に寄託した、同住所の原本玉枝さ んも良人が節煙して得たお金をこ

實施に開聯したものにお役にめた献金です、何になりと徴

てさい。と競し出し液田総長を厳 都管府村護路廿四名は各自が同

【中】

島軍の光師ある歴史を汚辱するは精鋭に磐加せんか、世界に終する

して徹底的修整硬成なくして出切

全版の恥辱たるに充分なの定 がりでなく年間若人の政盟を低



異常施行の八月一日を迎へ感激

いも大喜び離金の その

來訪客記献金したが、同時に級

武官府へも 位少ですが彼兵側 所行 学親し記 位少ですが彼兵側 所行 学親し 記 というてよいか、とても私には 要別出來 ません、これは本協に 場ってする。

を聞らせを僕心早く大きくなつ客本 昌得さん(10)も 小さな胸密を というない からなり

に託して來たのを初め

五館を入りる内

がつて堂

40

の興

【概念】卅四三京城中區別次7 町二〇五、森衛塚本五十四三 城中區別治町二八八二、本井森 城中區別治町二八八二、本井森 城中區別治町二八八二、本井森 城中區別治町二八八二、本井森

有難い日の記念

人選も決して失敗してはなったい

(光州) 廿日所內大正的時音碗

型 の和級に々といって智能したが、 を もめった





































の一般激をいかにレて現はさらかと二年五寅南県民は、「欧に配念事識を計理したり、兵器の概念を相談したりしてゐるといるが、け 兵の姉妹となれる歓びに、全鮓はどよめき、心なき草木さへも蘇るかに 見える、この世紀 翻幅をかぶり、あの剣をつり、眉をあげてゃわれは大君のみ楯ぞ々と誇らかに云ふ資格を曳きびしみ、から頭の鬼にあこれれる数だったのだ。だがけふこそな半島の若き男の子は兵となつて、あの戦闘がしたらになかったが、それに男の子と思れて、じかも六鬼影響の郷かしい敷地層を贈らせながら耳に召される動機のないのなり終われていたがくの場所が知られた前に世郎問年が立って、漢く郷(込んであるやうな場面を、衝側に、直覚などの殿下にしばく られたのだ、この光榮、この威激はひとり青少年だけのものではない、 兵の父、兵の母 3、せめて亡意じの分としてこれを解げさせていたと考示す。といふ派でましい客託をあはせて、働りなす。鮑談徳語をもつて家さに きをしながら金一封を差出す人の言葉の如く、 タピヒーレースースベ゙これでこそ心の底から 内地の方々と 兄弟になれました。と、 うれ 出事者、京城の四面競技などの赤賊から、地方の影解人が、わたくしには記役に立つべき男子が御座いません ふ縦(しく快い響きを持つた管整を構成ら降にのぼせて、けるの光樂とW 召さる \ 光榮を辦ひ得る 者も、

るひ会員風の如き拍手で徴収を表 を開催した次第である。と挨拶を 2だと思ひ、今日縣

意臨時態

聴動

★敦岩町四四二ノ三三、宮ノますのと贈って二回を献金

(成第二 (公) (所) 人(唯) 教育部會 の光線に最いる 一端として同會員の日本前に牟庇の節部に於け | 委員會議に臨時期版資を開催、こ

懇談會で醵出を

さんが層ないんで兵隊を出せませ ○、木村武彦君(一島)法院

既としてゐた所、このたび多年の

資施に関して國民総力朝鮮聯盟か

紅朝させて登城。長役は國民

一放快に堪へぬ次第である。これ

長に一任して同十一時す客敵をし

感謝の爆發

展明一〇ノ三金本湖長の肝期りで塚原となり北受方面

献金部隊本社へ殺到

一組といこ

少は《兵隊になれるまで観をきた」と一個七十七億を同覧金に忠記

▲照詢町四五の二、金山命洙劉へ見さんに負けない壁間でやり至す

【夏=金澤さん姉妹】 順子さんは二回六十二後あり徹長

了と貯金額を本社に持細これを

と幼い腕を高鳴らせながら二面指 金一千 脳を禁出した、このほか同

▲南西岩の 弟昭治君(火)は 私も 中層明治町二の八二平井澄夫氏町三の10一権財虎之重氏、同脚総一郎氏▲五十四館路屬明倫 ▲十四中區林町二五一网維川棚

みたみ我の感激を今日ほどはつ 各地の

小遺を節約 川支局に寄託

會主木下梅之民一的朴志完(同町 徹として本社區北支局に國別財命

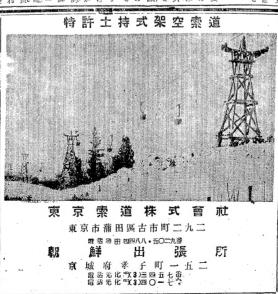
無敵なのだ人八統総字の大精

左の如き記念肇國歐金者がどつと

【七三】本社仁川文局には明確を

類はお小量のの金一回を原則







の対かてあたが同年二百年的 つて四国革命。國皇孫長徳院は七日が紛に尚親兵権を改き、四月 十一年前の明治五年十一月廿八日廿日慶近趙成元を改善の改善とれた に最近の政治に応じて兵員を征 に還在された

徴兵制前提の兵制

貯蓄増强の一 堅實株式への投資

新になって紅めて兵制 いつでも 導んで死ぬのを 最大の るの光気を創む大君の御路には「上と人民を展別したので、

の死後山縣有典、西郷從道等によるの前身たる兵部省の大輔に任ぜ 第(今の土官學後)を創設し、彼のは大きく明治二年、今の陸海軍 新設せんとした、當時軍人たるに

器がある、関係の様式もプランス

組織した。福郷以上の幹部はこの

際は他二門を一小隊、三分隊が一

将來なすべ言大術を識じてゐる

動命を以て臓長士三滞の長さからなり、明治四年1月廿日の原廷 に於かせられても 柳陽兵を組織する敵をまとれても 柳原氏を組織する敵をまとれている。

薩長土藩から御親兵 また一方では兵器製造を心がけ

察院せざるペからず』と兵部省の

んと欲せば其節窓たるべき人才を

・暗で巌壁、長州、土佐の三郷の大西郷に出馬を乞ひ、そのの大西郷に出馬を乞ひ、そのぎとして、僧時國兄島に陥省

△光照町二六一・三共恵Ⅰ潭○ **程二一比縣浦國民學校四年 《私** も兵隊になってからは壁の荒離に の五年・ / 小

ん、病中の父に代つて僅かですが 出し静かな中に銃後婦人の決意を

が忽らに集り、なほこの運動は全

て献金します。と、園を客託「鷹 の快舉 物を図ふのを止め

父に代つて

懲謝感激の印し

行施令兵徵祝 險保兵徵

險保婚結育教

超開の險保兵徵 山釜 • 町 樂 未

の普及と共に半局の思想解は徹次

得ることなり、同年度四百名、十 四年度六百名、十五、六年度は何れ

出たものもあった。かくて各頭と関っては血質で加ひ

授賞の係光に輝いてゐる。この外 東京教が正智の四項士は金路設定 解果、 昭和十三年<u></u> 近施され湖十七 人として 身心ともに 恥かしくな 個へ微陶器演のため、大本整柄

鍵をわきまへざるが如き脳から らう、脳米災の如き第一級の断

殿と前見、大要にの如く歌った

うとする極めて有談職なことで

に動物的な確定であり、は

質問るなり匿念が

睛の徴兵制に激勵の講演行脚

脚 秋山談城入謀參

殿のために敬聞することに干服

一週の光繁であり、名響といは

る、陸に海に海に掘む球砂砂の大殿を窓が破域米が緩緩には斑斑獣震致の蛇跡を概か顔長を見かえて強へた暗児の日八月一日こそ、生原能丁が維えしくも最長の一貫として生れ出る日である。

じ世界に冠たる総質の一員たるのだ、進め便送便長へ一局半若人が周蓋族は徹底的修進線反の 後において無敵協類の一員たらんが星國の一蹶力として充分世界を畏怖せしめるに足る

一丁は生れ出でた、屋民たらんとの赤跋を傾けて数に俳句三年、今老漢炯眞

開起 阿殿下 御盾縦の際・姫かい所である、前ち郷に李玉 子に極せられたが一日本王順

徴兵制實施に有難き思召

めて御歌の郷団式を現行し 脳を久しらしたのであったが

決職下の時局を誤りなく収 みいくざのさなかなれとも安らかに

大東亞戦下に思ふこゝろを詠める歌 ならむ波よせくとも御民みな

昭和十九年度よりふるさとの

若人も兵役に

召さると聞きて

種やせ

毎日新報社 京城日報社 大

朝 鮮 總 督 府後援朝 鮮 總 督 府

總合計百十七萬三千周

柿シブ

ガキにて御通納希望

事業資金

校門前

ゆめさめぬ人おほくしてともすれは

場――京城府民館大講堂
み け ふ で で 七 時

但し小位入場所り 入場無料

運際

H

この治症みわさなしとくる変で

者のためひとうことろにはいまなむ もともに國のみたてとめし京古む 大みこくろそがしこがいける

しこのおたてとたる影子人

いくさ人の上をしのひて図のため

日ことをすこす語をわするな

城原並平域に向ひ、同夜は平壤公部を振み、二日は午前八時十分京

突破下の朝鮮を語る夕を開催、

なば秋山参談は | 日午前九時 指大西に参列、正午朝鮮ホテル

決戦半島を語る

文報會員の報告會

敬愛した。 地方專賣局收

今ぞ我が意を

我々は選き配先より~辞める

する当中に华心徹氏令生職を

浄な魂が生れる、そして整頓することも清められ だ、共に既ひ共に解げる至城建る氣體を以って西

中村大将、感激の入城 の半島へ第一歩を印したのだ、 のため朝鮮軍の招談によって優し

能量でで満世

何時に終らね温減をほころはせた 『やあ…』と優し気な第一野

著名に流れてゐる傾向があり、ひ ペが質用を離れ流行網をはらみ、

恤 兵金 恤 兵金

五百萬同胞の赤臓は結びしこゝに光榮める『徹長虹

けふ一日から窓々晒れて征ける身となつたのだ。思

脳和十九年度より之を領境し得る機構を進むること **〜ば昨年五月八日『廟鮮同胞に對し微長郎を施行し**

銃等の丘器散納となり、果は直徹 に銃後半周の熱意は國い、雌氏の

光楽を形略し大任を完全せよ。と欧洲の官場は後せ 鉄起し脱技の鉄成に國路の習得に戸野・政権に受協のられ半国常少年を中核にその父母も航父母も一野に

献金に呼應

鑁(四十四百八十二件)

に思ふべきである。昨年五月十一 日朝鮮神館の大朝で宣標した祠を

社名

變更謹告

致候間此段随告仕候

昭和十八年八月一日ヨリ弊社社名ヲ左記ノ通リ改称

京城出張所 新社名 田邊 製藥 株式會社 哲邊 五兵衛商店 京 城 府 贲 金町二丁目百七十五番地大阪市東區道修町三丁目二十一番地

更可致候間此段謹告住候也 昭和十八年八月三日ョリ際社社名ヲ左記ノ通リ變 新社名 武田藻品工类株式會 社

立ノ程順上候 北名變更有之候間御鯨承被下度今後共從前同樣宜數御引 熊社觀會就夕ル株式會社武田長兵衙商店儀令般右ノ通り 本 批 大阪市東京の各町二丁二二十六会和 取締役社長 武 田 長 兵 衛 商店

朝

昭和十八年八月一日

更謹告

名 變

社

社名改稱 慈告

普通海員養成所生徒募集
一、藻塊人員 約九〇名
一、藻塊人員 約九〇名
一、菱塊人員 約九〇名
一、菱塊人員 約九〇名
一、菱塊人員 約九〇名
一、菱塊人員 約九〇名
一、菱塊人員 約九〇名
一、菱塊人員 約九〇名
「一、菱塊人員 10月日 〒月日日 | 1月日日 | 1日日日 | 1月日日 | 1日日日 | 1日日 | 1日日日 | 1日日 | 1日日

両三二二

Ħ.

開

朝鮮海事報國閉群山普通海員養成所に緊張問先のき贈合ノコト

學

生徒等 知用特殊 知用特殊 知用特殊 大田 不知 一工 科 大田 在 《 集 第 年 一工 科

日本醫藥研究所

かゆみに

修理業爭許可制

期清する夜の

時局講演で開発を表に

召さるゝ日 本長

全鮮に展ぐ増産運動

夏を克

指E**股**會 新田田東 東西(日曜日) 東西(日曜日)

第一部

山西の土地と民。 時利への輸送時利への輸送時利への輸送時間への輸送 枘孔攀穿機械 Õ



大日本紡績株式會社清之大日本紡績株式會社清之、 南 東 水 南 町 市等學校至業程度以上 差干名 一次 東 町 町 市等學校至業程度以上 差干名 音楽



月の實践事項に示せ必勝の意象

百圓の模型

[22] **沙郎(繪)**

接馬・給水用品・

若干名

書古/歴史ト優秀館比テ際ル斯界度一 忠勇印軍隊ラツパ プラスバンド 業務全額/離仕入へ

ぶよを凉灰の斛萬夏盛 はらと版(会社 第一夏の放送 第一夏の放送 入場料 八番社(会社) 朝鮮微兵制貴施感謝週間 場

東京支祉設置

統代に関する日本國中華民國関係 成園は世に日南京と於いて中

明十段)帝國権所が年半一日九日、沈中總院國の成八で係する司。 第四の董権記載以入いての領力以、第5歳以外で日本國国祖の後十

が照 | 風世 | 華七月世 | 日附京ごおいて

茲に 半間の 宛然何記

邦人の課税權委譲

日華兩國の調印成る

解解的世代から、原因にわなり何 まといばれる。 ** が敬奉を終けたと聞くられる。

夜三突如緊急階離を開催。 卅日午 数は添く叩き起され間僚に出席しドン來館にイギリス政府は廿九日 極めて突然に開催され、開選の多 【ストツグホルム 世日同盟】 ロン | 協議の内容は判明しないが隔離は

英緊急閣議開く

閣僚を非常動員

極めて突然に明保され、

狀態に復る

役員の陣容整備

朝鮮電業ける發展

· 輸於電力決戰能

ローマ世目前出ステファニ語 此はイタリー國内の情熱につき

作に記ける関語語の関

隻(轍)を撃沈破 獨空軍、護送船團を猛襲

るわけで居得民の政策的負債網が終せ収・・・・

松村 早

始開險保久數會除保實數學

胚割各國使臣ご會見

日孫退汽本二東南海班理全學學 「ストツクホルム廿日間間」

四十三歳を職墜した日本日愛交 獨空軍、英本

四十二人發聲逐

間の1|定課 うせまへ應に果戦



大

E

八月一日は日曜につき夕刊を休む 明日臨時夕刊發

南京北日间四】在藍帝國国路民

れてある。しかしこれが貨施ドーの税收費定額は全支において約

稅收豫定一億元

國府の財政强化に寄興

記念し、これを慶祝する意も含めりますが半島に徴兵制度實施され 臨時夕刊を發行致します て特にあって

ホルモン 湿しき男性美と、

に目下これが

ぬかることに

液刺たる活動力の源泉

潜灣廳設置か



節約して効果的につかひませう ムは最良の品質を

大君の御楯

愈々あす全鮮彩る慶祝行事

電波に乗せて関語

即行事務の即決

官募集締切延期

自柳氏 それは第しく配せ と軍隊がよく緊密に運輸をとると

「深い信念でもつ」が念にしても思い質るのな日本の「れが大事でありまして、その意味しても、子供を創一 自柳氏 一今度徳氏郷が布か一般はどろしても曲りつこない、そ 健兵は母親の教育から

人なる母。たれ

に持つてゐた 色を献じ、か 色を献じ、か

その日。 い見ない大気なる調があり、又称こ見なの人で、実体で見るる観形を以 一般一般・更にまた一気また一 で、利山へさして、紫々削減して くのが建く配められた。 解は口の , 提配給前 この意激/半島二千五百萬民草に明朗健全なる力を與へんとする 若劇・明治座・城雪・京劇・中劇

難の谷

た張虎、

8月1日→8日 府都府社社 國民總力朝鮮聯盟 命令備報報 鮮軍司 海 瀬 日 新 朝鎮京每 國民總力京畿遵聯盟 國民總力京城府秘盟

感謝記念の慰問袋を人大東亜の全戦線へ北にノ南にノ 記念慰問繪葉書進呈(地階) 子屋

徵兵制実然感謝

この光榮を貯蓄

総聯が全愛國班員に飛檄 **機** 田中經 談長部濟

けふの市況(量)

同胞の影響は海翳して矢も媚樂の日はいよく、明一日だ、年品

南方に擴まる相撲熱

感謝の先陣

矢野橋村(繪) 吉川英治(作) 香 (208) 孔明以外の あると云

現株

第一回(四は九六岁迄)

· 営競宗内贈呈



文 **數 島 產 婦** 医常博士 一 數 息